

あまみす

雨水利用を進める市民の会
会長 辰濃 和男
〒131 東京都墨田区東向島1-8-1
☎ 03-3611-0573
FAX 03-3611-0574

大田知事・雨水

・波照間



◆ 会長 辰濃 和男 ◆

はじめて沖縄を訪ねたのが32年前ですから、だいぶ昔になります。ひとことは、毎年のように沖縄に行き、そのたびに、琉球列島にみなぎる個性ゆたかな文化に魂をゆさぶられる思いで帰ってくるということを繰り返しました。こういうのを「沖縄病」というんだそうです。

32年前の旅でひとりの青年に会い、那覇の飲み屋で夜を徹して語り合いました。青年、といつてもすでに39歳になっていることを後で知りましたが、その人は戦時中、鉄血勤皇隊員として地上戦に参加し、かろうじて生き残った人です。沖縄の民間人がスパイだと疑われ、日本軍に処刑される場面も目撃したといっていました。「日本政府の要人は沖縄の慰靈塔の前でたいてい同情論をふつ。あれはムシズが走りますね」

その論客が、いまの大田知事です。

◎

「雨水利用の大会を沖縄で」という声が盛り上がり、昨年の11月、大田知事を訪ねました。

雨水利用がいかに大切かを説き、沖縄県が中心になって大会を開いてもらいたい、雨水利用の先進県になってもらいたいとお願いすると、大田さんは即座に答えてくれました。

「いい話です。やりましょう。沖縄は渴水に苦しむことの多い土地です。本来なら私たちが考えてしなければならない重要な仕事です」

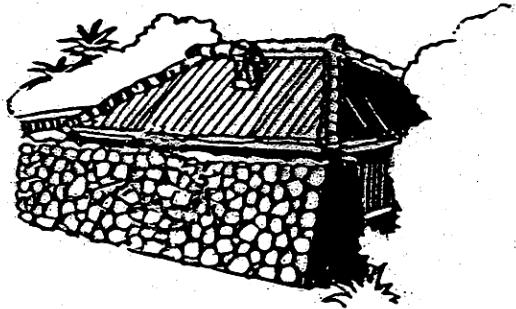
そういうただけではなく、すぐ担当の人を呼び、ただちに予算化の準備にかかるよう命じてくれました。

同席してくれた沖縄タイムス社長の豊平良一さんがあとで、私の顔をのぞきこむようにしていいました。「辰濃さん、よかったです。これで大丈夫ですよ。タイムスもしっかりと応援します」

◎

1984年、沖縄の波照間島を訪ねて、天水のお茶をごちそうになったことがあります。島に簡易水道ができるからも、島の人びとは「お茶を飲むときは天水を使う。そのほうがうまいから」といっていました。元日には、聖なる井戸で若水を汲み、その水にユリの花をいけてまつります。水に祈りを捧げることで1年が始まるのです。

雨水利用を進める運動をしたいと決心したのは波照間で天水を大切にしている島人の姿を見たのがきっかけでした。私の中の「雨水利用」にとって、沖縄は根っこにある島々です。いまも沖縄に残る雨の文化、水の文化、たとえば雨ごいの踊りや若水の儀式、伝統ある天水利用法の数々からも、私たちは多くのことを学ぶことができるはずです。



いざ

雨水利用沖縄大会へ



会務担当世話人 村瀬 誠

◇いよいよ全国展開の時が来た

昨年の雨水フェア終了後、会員と雨水利用コンテスト入賞者で満員となった屋形船のなかで、誰からともなく、私たちの活動もぼちぼち全国展開する時期に来たのではないかという声が上がりました。世話人会でも、雨水フェアを雨水利用運動の集約の場としてだけでなく、こちらから各地に出かけ、雨水利用や雨の文化に学びながら、ネットワークを広げていく場とする、新たな方向性が打ち出されました。

新たな展開にふわしい場所を検討した結果、沖縄が候補地に上がりました。なぜ沖縄か。その理由は3つあります。

第1に沖縄は毎年のように水不足に見舞われてあり、全国的に見ても雨水利用の推進が求められている。

第2に沖縄には雨水利用を導入した住宅が数多くある。また沖縄市など、自治体レベルでの雨水利用の取り組みの盛んな地域がある。私たちが沖縄の雨水利用に学ぶ意義は大きい。

第3に雨水利用東京国際会議に、沖縄から参加された人をたよりに、1996年1月、会員9人が沖縄の雨水利用実態調査を実施し、雨水利用のネットワークの素地がある。雨水利用の全国大会をここで開くことによって、本土と沖縄との雨水利用のネットワーク形成の契機となる。

◇大田沖縄県知事、「沖縄大会」を快諾

沖縄で雨水利用の全国大会を成功に導くためにも、雨水利用の運動を後につなげていくためにも、地元の県や市などの自治体に協力してもらうことが必要です。そこで、まず昨年の9月15日から17

日まで、世話人の村瀬、徳永、山本が沖縄市と沖縄県を訪問し、雨水利用沖縄大会の話を持ちかけました。その後、現地との何度もやりとりの後、11月1日に、辰農会長と大田知事との会談が、沖縄タイムスの豊平社長の同席のもとに実現しました。会談で知事は雨水利用沖縄大会を市民の会と共に開催することを快諾してくれました。このことは翌日の沖縄タイムスで報道されました。今年の1月9日付朝日新聞でも、雨水利用沖縄大会のことが、都内版で報じられました。

◇大会の成功に向けて

市民の会では、昨年12月4日に総会を開き、沖縄県、沖縄市などの自治体と共に、雨水利用の沖縄大会を開催することを確認しました。「沖縄実行委員会」のほかに「市民の会実行委員会」をつくり、会長には辰農会長、事務局長には村瀬世話人、副会長には山本、徳永世話人がそれぞれ当たることになりました。

大会を一過的なイベントにせず、今後につなげていくことが大切です。市民の会では企画部会をつくって、大会に向けて準備をすすめています。実施にあたっては、今後、地元の市民団体や自治体と調整をしながら進めていくことになります。

さらに、沖縄の事務局と連絡をとりながら、毎月1回のペースで実行委員会をひらく予定です。次回、第2回実行委員会は、2月5日、午後6時30分から墨田区役所の会議室で行います。沖縄の水事情について、興味あるレポートもでますので、どうか、みなさん、ふるってご参加下さい。

沖縄大会の

企画会議に参加
しませんか？

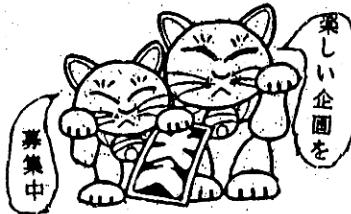
◎会務担当世話人 山本 耕平

沖縄大会に向けて、市民の会の実行委員会が発足しました。現地の実行委員会と協力して、いろいろな企画をたてて、実行していきます。

ご存知のように、沖縄は今、基地の問題で大きく揺れています。戦中戦後を通していろいろな意味で沖縄は本土の犠牲になってきた経緯があります。私たちはこの大会を通して、沖縄の人たちとも交流しながら、沖縄のことをもっと知りたいと思います。会議に参加するだけでなく、事前の準備を通して沖縄の歴史や文化を学んでいきたいと思います。

1月2月13日、1月13日の2回にわたって企画会議が開かれ、様々なアイデアが出ました。

- ・沖縄の伝統的な雨水利用技術を学ぼう。
- ・沖縄の歴史を学ぶ機会をつくろう。
- ・本土と沖縄の雨水利用の歴史、現在の取り組みを情報収集しよう。



- ・雨水利用や雨の文化に関する展示をしよう。
- ・郷土料理と泡盛をたのしむ企画をたてよう。
- ・家族をつれて楽しめるツアーを企画しよう。
- ・Tシャツをつくろう。
- ・雨乞いの琉球舞踊を観よう。
- ・リンケンバンドを呼ぼう。
- ・本土と沖縄の子供たちの交流を企画しよう。
- ・沖縄のダムの実態を調べよう。

他にもいろいろ飛び出しそうです。

現地にはまだ雨水利用の市民グループはありませんが、川や海、リサイクルなどの環境問題に取り組む人たちの間で、雨水利用についても市民活動の輪を広げていこうという動きがはじまりました。こうした現地の市民グループとも連携しながら、行政と市民の「協働」で沖縄大会を充実したものにしていきたいと思います。

企画会議にはだれでも参加できます。当面は月1回の実行委員会を開催しながら、企画ごとに役割分担して、具体化する作業を進めていく予定。皆さんのご参加をお待ちしています。楽しいよ！

インターネットで情報発信に向け始動開始！
～まずは、パソコン購入しました～

現在、情報部会ではインターネットによって国内外に向けて雨水関連情報を発信するため、ホームページの作成を進めております。楽しくなるオリジナル情報満載になるようがんばっております。請うご期待！

概略のレジメは以下の通りです。

- A. やってよかった私の雨水利用
- B. 世界の雨水利用
- C. そこが知りたい Q&A
- D. 雨の歳時記
- e. 「雨水利用を進める市民の会」の紹介
- f. 市民の会活動報告

- g. 雨水フェア報告
- h. BOOKS 雨水関連図書
- i. 雨水関連メーカー&設計事務所紹介
- j. LINK 雨水関連サイト



また、地球環境基金の助成金のおかげでようやく、インターネットができるパソコンを購入することができました。Apple社のMacintosh Performa 5410ですがWindows95も走ります。使いやすさと実用性バッチリです。また、カラープリンター（A4なら長モノ可能）、スキャナも揃っています。これでデータベースも作れます。皆さん、事務局に来てどんどん活用してください。ゲームも入っているよ～ん！

(松本正設)

わが街の雨水利用施設（その1）

千葉県柏市 旭町近隣センター

◆ 市川 龍 ◆

私が千葉県柏市の市民となってから5年余りになりますが、「墨田区や他の自治体のように、はたして柏市が雨水利用を推進するようになるであろうか？」と、正直なところ、つい最近まで悲観的でした。

そうしたところ、昨年2月の町回覧板に挟まれていた広報誌『雑排水美人だより』に「水資源を大切に…環境にやさしい近隣センター…」と見出しがあるのにビックリ！まさかと思いつつ記事を読んでみると「平成7年10月に完成する市の建物に雨水利用設備を導入したので一度見学してはどうか」という内容でした。私は感激し、竣工から5カ月くらいあとに、カメラ片手にイソイソと施設見学に出かけました。

この近隣センターは、延床面積が1,400m²たらずで、管理棟とアリーナ棟からなっています。

管理棟には料理実習室や多目的室、和室など、アリーナ棟には体育室や放送室などがありました。

職員の方に、雨水利用設備を見に来たのだと話しますと、よくわからないとのことでし

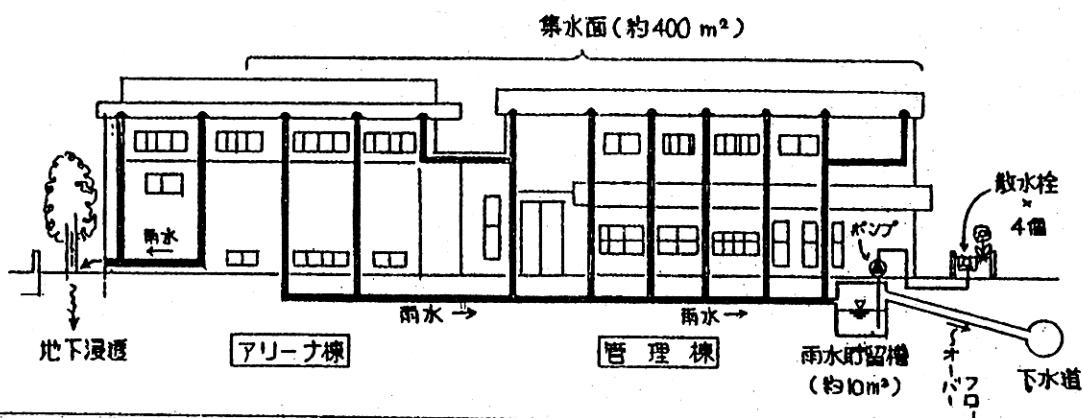
た。仕方ないので、勝手に建物の周りを調べはじめると、親切にも職員の方が雨水貯留槽のマンホールを開け、中を見せてくれました。残念にも殆どカラの状態でしたが…。

1時間くらいでしょうか、いろいろ調べてから帰宅し、その結果をまとめてみました（下表）。

柏市内では、この旭町近隣センターが初めて雨水利用設備を導入した公共施設ということですが、民間では、住宅都市整備公団がつくった「四季第二団地」も雨水利用を行っています（機会がありましたら、また紹介します）。住宅規模の雨水利用については、まだ情報が入っていませんが、ボチボチ調べていこうと考えています。

会員の方で、自分の住んでいる街の雨水利用施設を調べて紹介したいと考えている方は、ぜひ、「あまみず」に投稿してみてください。

集水について	処理について	貯留について	用途について
管理棟の屋根全面とアリーナ棟の屋根の半分から集水（約400m ² ）	無処理	地下ピットを利用（約10m ³ ） オーバーフローは下水道へ放流	植栽への散水 公用車の洗浄



"雨、すきです" —茅ヶ崎市西浜小学校で 雨水リサイクルまつり



徳永 暢男

昨年の12月7日、神奈川県茅ヶ崎市の西浜小学校で講演をしました。PTA主催の「フェスタ西浜—リサイクルまつり」というイベントです。

講演のタイトルは、「きっと雨が好きになります」。子供たちだけでなく、両親や先生、PTAの関係者ら250人が、熱心に聞いてくれました。

このイベントで感じたのは、親が、雨水利用に关心をもっていて、行動的だということでした。先生ともども、頼もしい存在です。

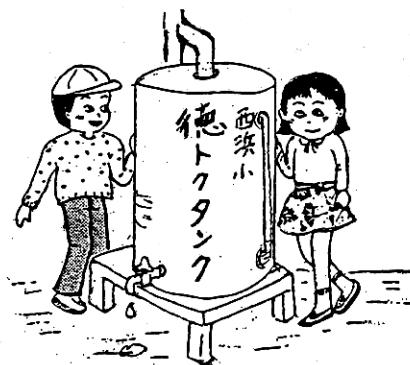
天水尊もこのイベントでお披露目されました。県下の学校では初めての導入でした。

年末、PTA会長の瀬田恵子さんから市民の会に手紙が届きました。「タンクのニックネームを募集しました。当日、子供たちが考えた数多くの名前の中に『徳トクタンク』というのがありました。子どもなりに徳永さんの名前を織り込んでつ

くったようです」というような内容でした。

うれしかったですね。これまでに作ったタンクは数えられませんが、500～600基くらいになります。今は週に10基のペースで作っていますが、まあ儲けにはなりません。子どもたちが、天水尊を通じて雨水の大切さを感じてくれればと思ってがんばっています。

(談)



雨水探検隊 —発表会近づく！



すみだの稲作り

・2月22日(土)

・午前9時～12時半

・墨田区曳舟文化センター
レクホール



当日、主役を担うのは、区内の小中学校の生徒さん20数名で、稲作りやレインスティック(紙の筒を使って作る、雨の音がする棒)の工作などを紹介します。

また、秋田の大潟村の阿部さんから、ブナの植林運動や雨水と稲作りに関するビデオの紹介やお話を伺います。市民の会の人見さんには、ペットボトルによるろ過装置の製作などを実演していただきます。水鉄砲づくりなどもやります。

そのほかにも、稲作りに参加した小中学校・幼

稚園・保育園の展示発表やアンケート調査のまとめの展示、そして雨水探検隊の日頃の活動の成果も発表・展示されます。

主催は市民の会の雨水探検隊、協賛は向島ロータリークラブです。当日の参加目標は、200人くらいを考えています。現在、9名のスタッフを中心に動いていますが、なにせ準備にも当日の手伝いにも人数が足りません。稲作りや身近な雨水利用に関心のある方、どうぞ今回のイベントにご参加下さい。

(談)



電話で

雨水の話

情報部会
技術部会小川 幸正
さん

雨水設備の専門家の小川さんには、あまみず通信にもよくレポートを書いていただく。

雨水に興味をもったのは、昭和50年代から排水の再利用に取り組み、雨水も何かに使えないかと考え出したのがきっかけ。

屋上を利用して雨水収集の量を調べたり、水質の調査もして、学会発表や雨水利用のマニュアル作りも手掛けてきた。

その小川さんが最近オーストラリアのカンガルー島に行って来たそうだ。家族でカンガルーやコアラに会って来ようという目的だったらしいが、小川さんはほかのことでも考えていたようだ。

オーストラリアの南部は年間降水量が約500mm。タスマニアでも雨水利用をしていると聞いているからひょっとしたら…。

思った通り、飛行場から移動する車の中から各家庭においてあるタンクが見えてきた。

「あれは雨水タンクか?」と聞くと「よく分かりましたね」と答えが返ってきた。

ほとんどの家が雨水利用をしている。中にはコンクリートで本格的に造っている家もある。散水に使うほか、飲み水にまで利用されているそうだ。

旅行に行ってまで雨水利用の情報を集めてくるあたり、「はまっているなあ~」という感じ。さすが情報部会。

小川さんは本当に忙しい人で仕事で飛び回っている。それでも雨水についてのいろいろな情報を集めたいという情熱はすごい。

「これからは家庭レベルの雨水利用に力を入れたい。水質の安全面を高めるためにどれだけコストを低く押さえる事ができるか、そこが難しいところで、いろいろやっています」

これから的小川さんに期待したい。

(あ)

◆本が出版されました

◎辰濃和男 「太古へ ニュージーランド
そしてブータン」

朝日新聞社 2500円

近代機械文明がブルドーザーのようにつぶしてきた自然、絶滅しかかっている命。それを守ろうとする人々の活動がさわやかです。太古への旅は癒しの旅、人間の本来の力を再生する旅でもあります。「ブータンへ行きたしと思へども…」とお嘆きの方、ご安心ください。名文家は、書く場所へ読者を誘い込む、魔法の力を持っているものですから。

◎山本耕平 「まちづくりには
トイレが大事」

北斗出版 1854円

最近、日本のトイレはとてもきれいになりました。山本さんが事務局長を務めていた、日本トイレ協会という市民団体がトイレシンポジウムなどで行政に働きかけた活動の成果だったんですね。トイレの歴史、世界のトイレの話から、バイオトイレなど今後の課題まで。もちろん、雨水利用もあります。おもわずのめり込んでしまう内容です。



◆'97「雨曆」完売!

3,000部用意していた「雨曆」が昨年12月初旬に完売しました。口こみ、テレビの天気予報などの報道の影響もあってか、予想を大きく超えた売れ行きでした。

費用の回収も順調に進んでいますが、振込がまだの方は早急に手続きをお願いいたします。ご協力ありがとうございました。

◆'98雨曆制作スタッフ募集中

引き続き、'98年版の雨曆を制作する仲間を募集します。8月の雨水利用沖縄大会での発表をめざしています。ご連絡は市民の会事務局まで。積極的な参加を期待しています。

お詫びと訂正

前号で「雨水の日」の各地の活動を紹介した記事に間違いがありました。お詫びして以下のように訂正させていただきます。

水俣市(沢畑亨さん) 「自分の勤めている農産物加工や料理や環境教育をする「愛林館」に、チラシを置いて来館者に配りました。付近のミカンを栽培している農家では、山の上の作業小屋に屋根の水を貯める設備を設けています。」